

* 学科試験以外の試験

推薦入試やAO入試では、学科試験以外の試験が行われます。当然、相当の準備が必要となります。希望先の入試要項や案内等を熟読してください。

1. 小論文・作文試験

推薦入試では、次の面接試験とともに実施されることが多いです。文章の構成力や人柄が見られます。

60～90分、400～800字程度が多いです。

タイプ1 高校生活のこと、自分の長所など、受験生の個人的なことを書かせるもの。

例 ①「20年後の自分を思い浮かべて書きなさい。」（日本大学）

②「あなたの小学校6年時の夢は何だったか。また、現在の夢と当時の夢とでは変化があったか。」（慶應義塾大学）

タイプ2 課題文を与えるなどして、あるテーマについての受験生の考えをかかせるもの。

例 ①少子高齢化について、「大きい政府」、「小さい政府」を主張する文章を読んで、それぞれの主張の長所・短所を比較しながら、自分がどちらを支持するかを述べる。

②インターネット、オンライン書店、著作権、出版社（者）、電子書籍、の用語の中から3つ以上を使用して、自分の読書経験を含めて、読書のあり方について書く。

2. 面接試験

充実した高校生活を送ったなら、素直にその話をすればよいです。服装や会釈の仕方などは、事前に練習しておくこと。以下に質問例を挙げておきます。

(1) 高校生活

高校時代を漫然と過ごしたのではなく、何かに打ち込んできたという積極的な自分を伝えることが大切で、またその中で何を得たかということも大事。部活に所属していなかった人は、「部活動には参加していません。しかし…」と得意分野につなげられるとよい。

(2) 大学の志望動機

その大学のイメージ・特徴と自分の希望が合致していることを説明しよう。大学の概要は必ず調べておく。いいかげんなことを言うくらいなら、言わない方がまだよい。オープンキャンパス等に参加するのが一番だが、参加していない場合は、パンフレットを熟読しよう。

(3) 志望学部学科

何を学びたいかが具体的に言えるようにしておくのが基本。志望学部学科に関連する話題となっていることは調べておこう。

(4) 自宅からの交通路・所要時間

受験生の緊張をほぐすために形式的に聞かれることも多い。当日の経路・所要時間程度は要領よく答えられるように用意しておこう。

(5) 「小論文」についての質問

自分が小論文で書いた内容について、質問されることはよくある。関連事項を含めて、準備が必要です。

(6) 時事問題

自分の志望学部・学科に関係あるものには特に注目しておく。新聞は必ず読んでおくこと。志望学部・学科に関する時事問題は必須。悲観的なコメンテーターのような発言をするよりは、高校生らしい前向きな姿勢で発言しよう。

(7) 読書

普段あまり本を読まない人も、この質問に対しては準備をしておいたほうがよい。

「どういう内容に心を打たれたのか」を説明できるようにしよう。

(8) 自己紹介

「3分間でスピーチをしてください。」などと時間を与えられることも多い。AO入試や自己推薦入試を受ける人は特に大事だ。持ち時間が長い場合は、自分の「現在」だけでなく「未来」についても話せるようにしておこう。

3. 実技試験

体育・芸術系の大学では、実技試験が課せられ、学科試験とともに合否に強く影響します。十分な事前準備が必要です。

体育系大学	(例) 100m走 ハンドボール投げ 立ち幅跳び 上体起こし etc
音楽系大学	(例) 譜面を渡され視唱 聴音 専門実技 (ピアノ、バイオリン、声楽)
美術系大学	(例) 色彩平面構成 デッサン etc.